

テーマ：『 ビオトープづくり・ホタル飼育を通して身近な自然について考える 』

平塚市立 富士見小学校

Tel. 0463-31-0049 担当者： 山口浩由



■実践内容：

ホタルの飛ぶビオトープをめざして、4年生が中心となって取り組む総合的な学習「町中のオアシス・富士見ビオトープ」が進められている。中庭にできたせせらぎをより自然に近い形にしようと、子どもたちは、草木を植えることや小さいながら田んぼ(湿地)を作ること、さらに、草木を痛めないように、また自分たちがいつでも自由に入り込めるようにするために「木道」を作ることなどが考えだされ、その実現に向けての活動をしている。

実践の中心となる4年生は、3月、自分たちの後を継ぐ3年生を誘ってホタルの幼虫放流会を行い、ホタルの育て方等についてを伝授した。

■実践成果：

「生き物が生息する場所＝ビオトープ」をできるだけ自然に近い形にしていこうという意識は、学習を進めた学年において育ってきている。自然に近い形にするためには、立ち入り禁止のほうがよいのではないかという思いと、自由に入り込めなければ楽しくない、意味がないという思いの狭間で、「木道」を考え出したことはたくましい。

ビオトープ作りは、自然について(子どもたちにとっては特に生き物との共生を)考えるよい場となっている。

■実践ポイント：

生き物の飼育は必ずしもうまくいくとは限らない。失敗することの方が多いということも理解させ、また、それだけに慎重に進めること・生き物を慈しむことの重要性を合わせて理解させながら飼育に取り組ませている。